

4. ボランティアスタッフからみた子ども食堂 ～ちくさこども食堂と西福寺おかげさま食堂を比較して～

川幡圭輝

私は現在、4カ所の子ども食堂への参加経験がある。2018年の1月からは5カ所目の岐阜の子ども食堂にも参加する予定だ。今回は特にボランティアとしての参加回数の多い「ちくさこども食堂」と「西福寺おかげさま食堂」について述べる。

「ちくさこども食堂」は名古屋市千種区にあるキッチン ARAGUSA という飲食店で月1回開催されている。2015年12月に第1回目を行って以来、これまでに25回開催をしている。対して、「西福寺おかげさま食堂」は名古屋市昭和区にある西福寺というお寺で開催されている。2017年10月からスタートし、これまでに3回開催されている。この2つの子ども食堂を比較し、それぞれの課題を解決するための策を考えたい。

1. 始めたきっかけと母体

ちくさこども食堂

母体は個人、加藤三重子さん

飲食店という業者の利を生かし地域で何かできればと赤字覚悟で気楽になんとかないと始めた。

西福寺おかげさま食堂

中尾さん、岡田(衣)さん、杉山さんが知り合いで、中尾さんが留学していた時に、地域のインフォーマルなつながりが必要だと感じたらしく、杉山さんなどに話をし、何か始めてみようとなった。杉山さんは愛知さん兄弟と繋がりがあった。開設にあたり趣旨を考えている際に、地域の方々（学区連絡協議会）に相談をしたところ、子どもの貧困問題に関しては、地域的に大きな問題ではなく、高齢化による高齢者のおひとりさまの増加が懸念されているということから、対象を子どもとせず、世代間交流を目的とし、希薄になっている地域性の復活を目標とした。

2. これまでの開催日時,食事メニュー,食事以外のプログラム

ちくさこども食堂

第1回の2015年12月から、2017年12月の開催で25回となる。

・第11回 2016年10月30日(日)

中華どんぶり&ギョウザスープ

・第12回 2016年11月27日(日)

カレーライス、コロコロサラダ

- ・第13回 2016年12月18日(日)
ロールチキン、洋風まぜご飯、ゼリーパンナコッタ

- ・第14回 2017年1月22日(日)
さかなの唐揚げ、豚汁

- ・第15回 2017年2月19日(日)
カレーうどん、ひじき煮

- ・第16回 2017年3月26日(日)
おでん

- ・第17回 2017年4月23日(日)
まぜ寿司、魚の竜田揚げ、すまし

- ・第18回 2017年5月5日(金)
洋風炊き込みご飯、ミートローフ、わかめスープ

- ・第19回 2017年6月18日(日)
お肉、お魚弁当

- ・第20回 2017年7月9日(日)
棒棒鶏風冷やし中華、ギョウザ、おかゆ

- ・第21回 2017年8月13日(日)
焼きそば、フランクフルト、唐揚げ、おにぎり、ビシソワーズ、ゼリー

- ・第22回 2017年9月17日(日)
親子丼、わかめスープ

- ・第23回 2017年10月8日(日)
魚ソテーと温サラダ、煮物

- ・第24回 2017年11月19日(日)
クリームシチュー、ご飯、フルーツサラダ

- ・第25回 2017年12月17日(日)
オムハヤシ、フライドポテト、デザート、おやつバイキング

(食事以外のプログラム)
レストランとしてのマナー

西福寺おかげさま食堂

2017年10月に初めて開催してから、これまでに3回開催されている。
毎月第2金曜日の開催

・第1回 2017年10月13日(金)

不明

・第2回 2017年11月10日(金)

青椒肉絲、春雨の酢の物、さつまいも煮、わかめスープ、柿

・第3回 2017年12月8日(金)

とり肉とトマトのパエリア風、豆乳スープ、ピクルスなど

(食事以外のプログラム)

大学生によるレクリエーション、勉強会など

3.参加者とグラフ

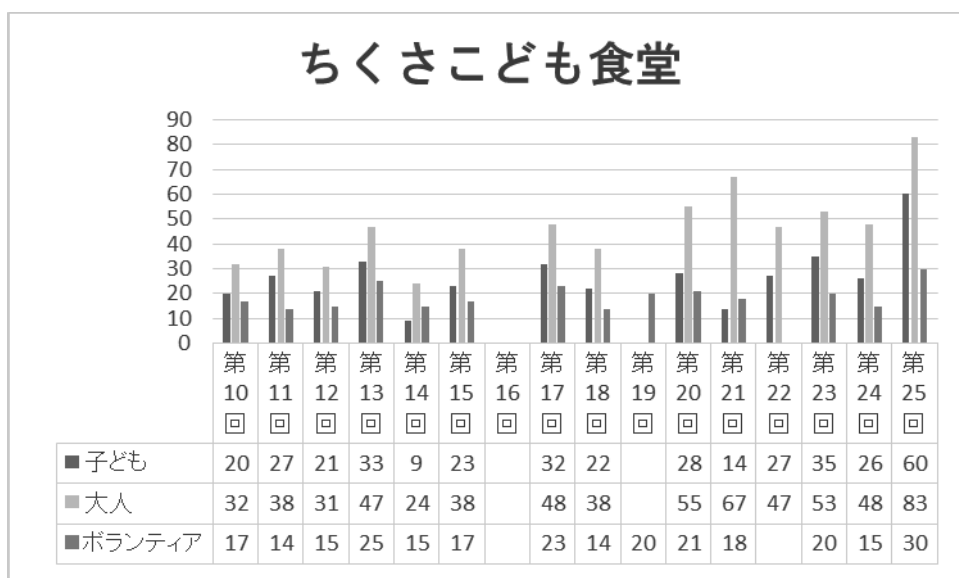


図 1 ちくさこども食堂参加者数

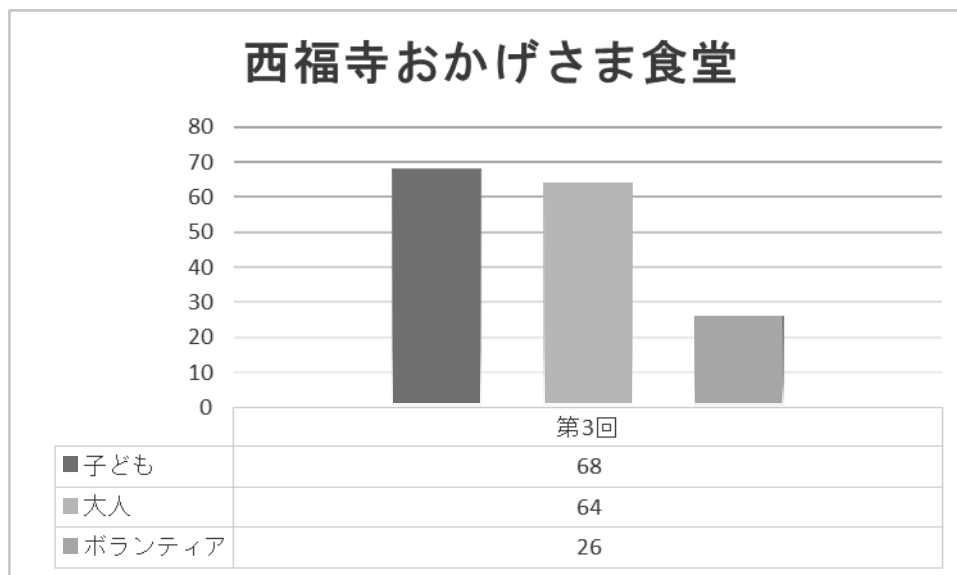


図 2 西福寺おかげさま食堂参加者数

4.その参加者(子ども、大人、ボランティア)の主な居住地、学区

ちくさこども食堂

子どもの参加も多いが、大人の方も多く知ってもらい来ていただいている。

子どもの参加は、子どもだけで来ることもあれば、小さい子はお母さんやお父さんに連れられて来る子が多い。

千種区の方が中心。ボランティアの方も同様。

西福寺おかげさま食堂

隣にある第1村雲幼稚園、村雲小学校の子どもたちが多数。

子どもの参加が多い。大人だけの参加者はそれほど少なく、高齢者の方は数えるほどしかいない。ボランティアスタッフは南山大学の学生が大きな力になっている。

5.課題

ちくさこども食堂

- ・ボランティアスタッフの力が生かしきれていない。

ボランティアスタッフは毎回参加してくださる方が多く、学生の参加、子どものお手伝いもあるため、仕事が無くなってしまう人が出てしまう。食べに来てくれる方もスタッフの多さにびっくりされると同時に、少し圧迫感があると思う。

西福寺おかげさま食堂

- ・ボランティアスタッフの人数不足
- ・当初、思っていた人が来ていない(高齢者の方々)

毎回参加してくださる方の人数が少なく、3つの場所で料理を提供しているため、スタッフの人数に応じて対応しないと効率が悪くなってしまいます。

また、子ども食堂という名前にはしないで、おかげさま食堂として、高齢者の方も対象としているが、その方々が参加していないということが課題である。

6.課題を解決するための工夫

ちくさ子ども食堂

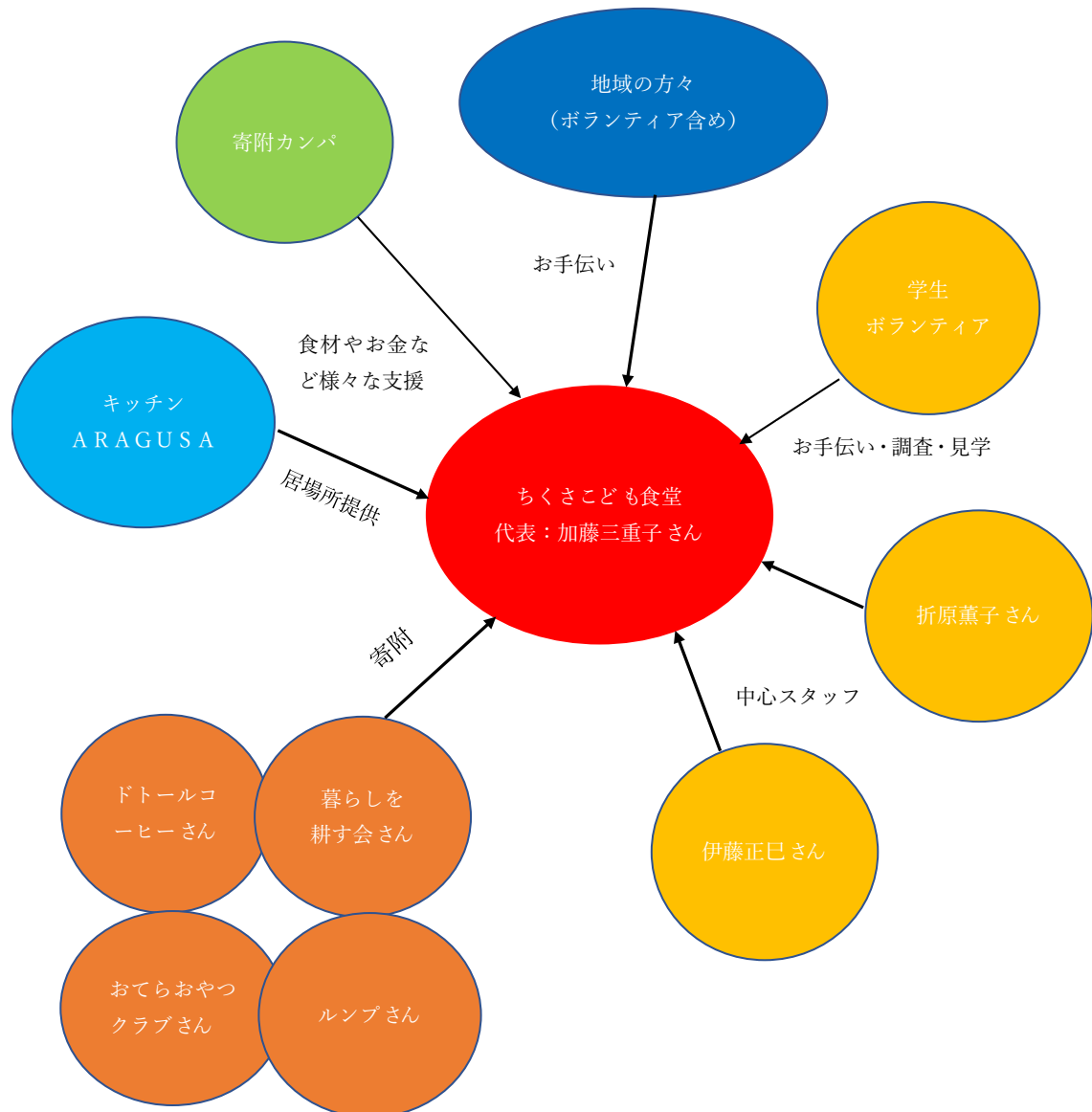
千種区に2つ目の子ども食堂を作ること。それに向けてのサポートや、情報発信、人的発信などをしていくことが必要。夏休み期間に行った、本山の生協での子ども食堂を毎月続けていけるかが、今後重要になっていく。

西福寺おかげさま食堂

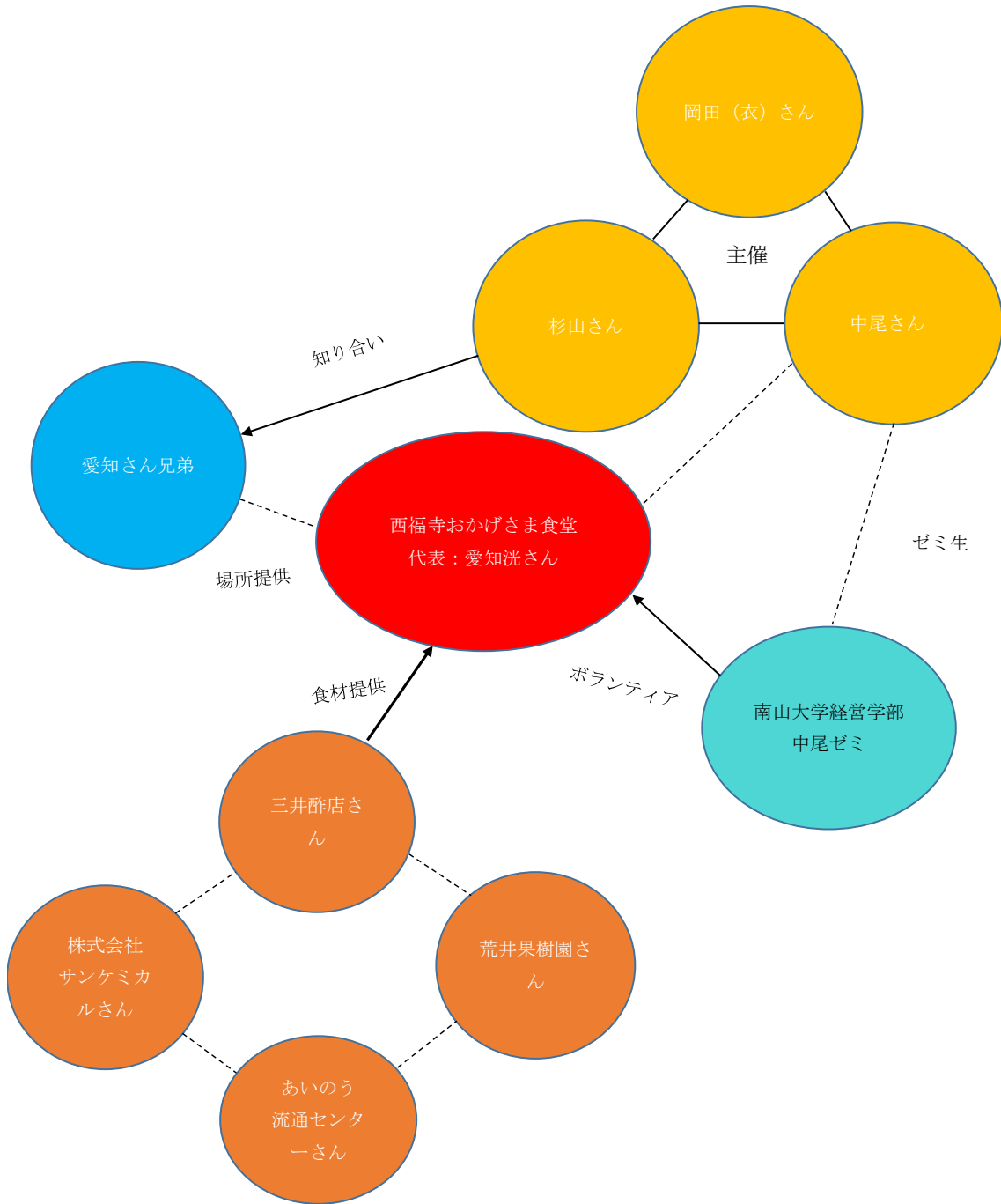
まずは運営に慣れることが大切。ボランティアスタッフの方々が、動きやすいような環境を整えてあげることが必要になってくる。内容はしっかりしており、満足度も高い。しかし、一度に食事できる人数が限られており、食堂の開始前に100人近くの方がみえるため、効率的な方法を考えるのが難しい。私たちゼミ生が、それぞれ一度は足を運び、どのようにしたらスムーズに進んでいくかなどを模索しなければならないと思った。

7.子ども食堂を支える関係者マップ

ちくさこども食堂



西福寺おかげさま食堂



8.居場所としての特色

2か所とも、他にはあまりない特色を持っている。

ちくさこども食堂

飲食店で子ども食堂を運営しており、愛知県内でも2,3か所しかない。一度に何人も入れないことや、レクリエーションのような活動は出来ないが、料理はとてもおいしい。子ども食堂という名前ではあるが、様々な世代の方々が「ちくさこども食堂」に来ている。月に一回の開催で、たくさんの方でにぎわっている。

西福寺おかげさま食堂

お寺は多くの人を受け入れられる余力があり、檀家のつながりがあり周知ができる。幼稚園も隣接しているため、連携が取れることからお寺で始めた。歴史があり、地域からの信頼性が高いという居場所としての大きな利点があり、食堂を行うには絶好の場。また、幼稚園が隣接し、住職が理事長を兼ねて連携が取れることから、子どもと保護者へ周知が取れる。

9.参加者に対して心がけていること

ちくさこども食堂

おなかいっぱいみんなで食べよう。このことが出来るようにスタッフの心意気が大切である。食事をしに来てくださった方が「ちくさこども食堂」に来てよかった。また行きたいと思ってもらい、ボランティアの方々が「ちくさこども食堂」のスタッフでいて良かった楽しかった。と思ってもらえるように、地域がつながる、つながっていくことを少しでも実感していただける機会にしていきたい。

西福寺おかげさま食堂

サービスとして食事を提供しているわけではなく、食事を通した相互扶助の交流の場であるということ。居場所としてリピートしたくなるような居心地がいいと感じられる空間づくり。参加者、スタッフともに社会性の獲得（世代を超えた、様々なかかわり）できる関わりを心掛けている。

10.ボランティアから見た子ども食堂(まとめ)

最後に、私自身が参加して思ったことを述べたい。子ども食堂のボランティアをやってみようと考えている人は、ちくさこども食堂のような経歴の長い場所が良いと思う。ちく

さこども食堂は、見学も可能で取材もしやすい。しかし、ちくさこども食堂はボランティアスタッフの数が多いため、自分が必要なかと思うこともある。本山に子ども食堂ができるようになれば、スタッフを均等に配置することが出来るため、千種区に2つ目の子ども食堂ができてほしいと思っている。

西福寺おかげさま食堂は、規模は大きいですが、ボランティアスタッフが不足している。金曜の夜ということもあり、予定を空けづらいのかもしれない。また私自身も参加できるときとできないときがあるため、責任を感じてしまうことがある。

こうした課題の解決策として、あいち子ども食堂ネットワークでボランティアスタッフの募集をかけることが出来れば、少しは変わるのかもしれない。だが、ちくさこども食堂と西福寺おかげさま食堂では開催日時が異なるため、簡単にはいかない。ボランティアはゆるやかなつながりを大切にしたいと思っているため、強制的になってしまう可能性もある。また、地域の方々は、ほとんどの方が各子ども食堂に継続して参加している理由があり、どこへでも行けるというわけではない。私のような学生は、様々な場所へボランティアとして参加できるため、ボランティアスタッフを必要としている子ども食堂では大きな力になる。

私がこれからやっていきたいことは、愛知県内の子ども食堂での、ボランティアスタッフの安定化だ。成ゼミでは1年間各子ども食堂の変化を学んできた。2年目となる今年は、ボランティアスタッフの観点から、各子ども食堂を支えることが出来るように努力したいと思っている。子ども食堂を研究している大学の学生が、積極的に参加してもらえようようなシステムを作ることが出来れば、その問題が解決すると思う。